

みんなの健康ラジオ

『月経困難症②』

(2018年6月21日放送)

横浜市産婦人科医会

ユイ・レディースクリニック横浜

國井 優衣子

器質性月経困難症を引き起こす疾患

子宮内膜症 子宮腺筋症 子宮筋腫



子宮内膜症

- 子宮内膜症とは、本来なら子宮の内腔にある子宮内膜組織が子宮内腔以外の卵巣やお腹の中で発生し、増殖する病気
- 炎症や癒着を起こすと痛み（生理痛・腰痛・下腹部痛）の症状が現れる



子宮腺筋症

- 子宮腺筋症は、子宮内膜あるいはその類似組織が子宮筋層内に発生する病気
- 子宮筋腫はこぶのように一部分が肥大化するが、子宮腺筋症は、子宮全体が肥大化する傾向にある



子宮筋腫

- 子宮筋層にできる良性の腫瘍。成人女性の4人に1人が持っているとも言われている
- 筋腫が大きくなると、過多月経、生理痛、不正出血、下腹部痛など多彩な症状

器質性月経困難症の治療

子宮内膜症、子宮腺筋症、子宮筋腫の薬

鎮痛薬 漢方薬

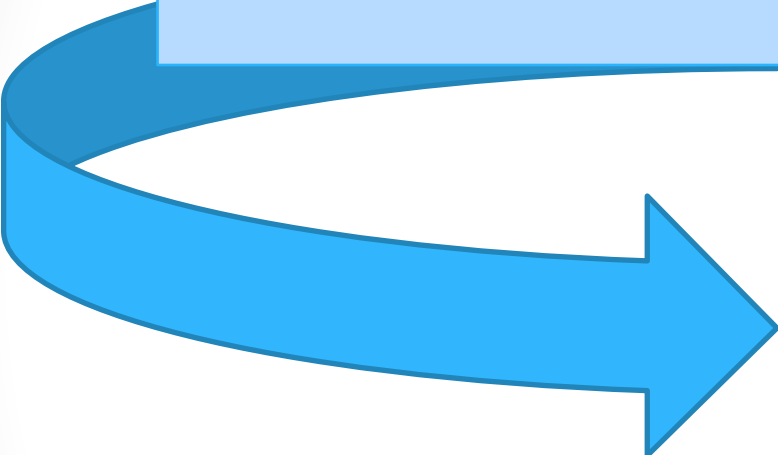
低用量経口避妊薬（EP製剤）

黄体ホルモン製剤

GnRHアゴニスト（閉経後と同じ状態にし、生理を止める方法）

機能的月経困難症の治療

鎮痛薬
(非ステロイド系抗炎症薬) など



- 漢方薬
- 子宮収縮抑制薬
- 精神安定剤

低用量経口避妊薬 (EP製剤)

月経困難症 総論②

- 月経期間中に月経に伴って起こる病的な症状を月経困難症と呼びます。
- 本来、生理はそれほど痛みを伴うものではありません。
- 生理期間中、いつも強い痛みなどの症状が起きる場合は、月経困難症と考えられます。症状を我慢している方も多いのですが、子宮内膜症や子宮筋腫など、背景に病気が潜んでいる場合もあります。
- 月経困難症には、原因を伴う器質性月経困難症と、原因を伴わない機能性月経困難症があります。
- 両者ともに、適切な治療法がそれぞれ存在し、症状緩和や病状の改善があり、治療効果は明確です。
- 月経困難症を放置すると、日常生活の質を下げるだけでなく、原因となる病気が進行したり不妊につながったりすることもあるため、原因を見極めて適切な治療をすることが大切です。